

# 平成26年度 校内研究計画

紫雲寺小学校研究推進委員会

## 1 研究主題

### 学びの筋道が分かる授業の実現(1年次)

～確かな「振り返り」につながる授業を求めて～

## 2 研究主題の設定理由

### (1) 当校の教育目標より

学校教育目標は「ともにのびよう」である。これは、お互いを尊重し、ともに学び活動する中で、一人ひとりがそのもてる力や可能性をかかわり合いの中で引き出し、学習・生活・運動面で伸ばしていくことをめざすものである。そのためには、子どもの視点に立って「どんな授業や活動を組織していけばいいのか」「話し合いの中でどのようにコミュニケーション能力を高め、どんな人間関係を構築していけばいいのか」等を考えていかなければならない。そして、一人ひとりの子どもが「できた」「分かった」と実感できる授業を創っていかなければならない。そこで、研究主題を上記のように設定した。

### (2) 昨年度の校内研究と子どもの実態、中学校区の小中連携の取組から

昨年度は、研究主題「かかわりあい、ともに高め合う子どもの育成」の2年次であり、ある程度の成果と課題が認められた(下記参照)。そこでの成果を生かしながら、昨年度までの課題(問題点)の解消に向け、新たに改善し、ステップアップした研究主題で1年次として学力向上に取り組むこととした。

また、昨年度は、紫雲寺中学校区の小中連携協議会の授業改善部の提案で、4校が授業始めに「ねらい」(課題)を明示した授業に取り組んだ。小学校は「算数」で、中学校は「各教科」毎にという取組だった。ねらいの明示については、ほぼ達成できた。年度途中からは、授業の終末部分でねらいが達成されたのか、あるいは、課題が解決されたのかを明確にする必要があるということで、授業の終末に「分かったこと」を可能であれば書かせるという取組を追加した。これについては、「何をどのように書かせるか」「授業構造の重点化」等の課題が多く残った。そこで、今年度は、中学校区で、共に授業の終末の場面で、「まとめや振り返り」に重点を置き、一層の学力向上を測ることとした。

### <昨年度までの成果と課題>

- ・授業のはじめに考えをもたせる段階では、ねらいを明示し、それをノートに写す活動をすることで、授業への見通し(目的意識や学習意欲)をもつことができるようになった。また、既習内容を明示することで、子どもは、自分なりの考えを書けるようになってきた。
- ・授業の中盤の考えをもたせる段階では、授業の構図を工夫し、自力解決後の話し合い活動を十分に行うことで、子どもたち同士がかかわり、自分の考えを発表し合うことができた。しかし、互いの考えを、ねらいや課題に沿って練り上げさせ

る手立ては不十分であった。

- ・授業の終わり（終末）の段階では、習得した内容のまとめが不十分だったり、時間不足で確かめの続きを次時に行ったりすることもあり、時間内にどれだけ子どもたちが学習内容を達成できたのかを確認できなかった。子ども自身もどこまでめあてが達成できたのかを理解できていない面があった。

以上のことから、本校では、私たち自身の資質を高める研究であることを自覚し、自分の授業や全員で何が改善できるかを考え、昨年度の研究を踏襲しながら、今年度は、研究1年次として研究主題の具現化を図り、授業改善と学力向上に努める。

### 3 研究内容

#### (1) 今年度取り組む課題

今年度は、昨年度の研究のよさを踏襲しながらも、1単位時間ごとの授業の終末時における「まとめ・振り返り」の部分にスポットを当て、自分の考えを書かせることで、より確実な学力の向上や定着を目指す。そのために、振り返りが確認しやすい「算数」を全員の研究共通教科とし、取り組む内容も以下の4つを全員の共通項目として1年間授業の改善に努める。

<研究の内容>

- ① 課題とまとめをつなぐ構造的な「板書」の工夫
- ② 学びの筋道が分かる「ノート（指導）」の工夫
- ③ 意欲を高め学びをつなげる「振り返り」の工夫

\* 振り返りについては、本時の授業の「感想が書ける」→「まとめが書ける」「分かったことやできたことが書ける」→「考えたことや感じたことが書ける」→「分からなかったこと（疑問点）が書ける」等の段階（レベル）や、書ける量や時間「5分以内に振り返りが書ける」→「3分以内に3行以上の文章でまとめられる」等があるが、研究のスタート時は、「5分以内に感想が書ける」段階からスタートし、徐々に書ける内容の質と量のレベルを上げていきたい。

- ④ 授業改善サイクルを機能させた「授業の進め方」の工夫

\* ねらい→課題→自力解決（自分なりの考え）→かかわり合い（話し合い）→まとめ（振り返り）…次時や家庭学習へつなげる

一人ひとりの教師が、自学級の子どもの実態を考慮して、それぞれの研究内容を具現化する方策を立て、研究内容に取り組む。例えば、次のようなことが考えられる。

- ・本時の内容や流れが分かる板書の工夫
- ・ノート指導で、自分の考えに理由をつけて書く力の育成
- ・考えの変容や深まりを自覚させ、自分の言葉でまとめられる振り返りの工夫
- ・振り返りにつなぐための授業サイクルの改善

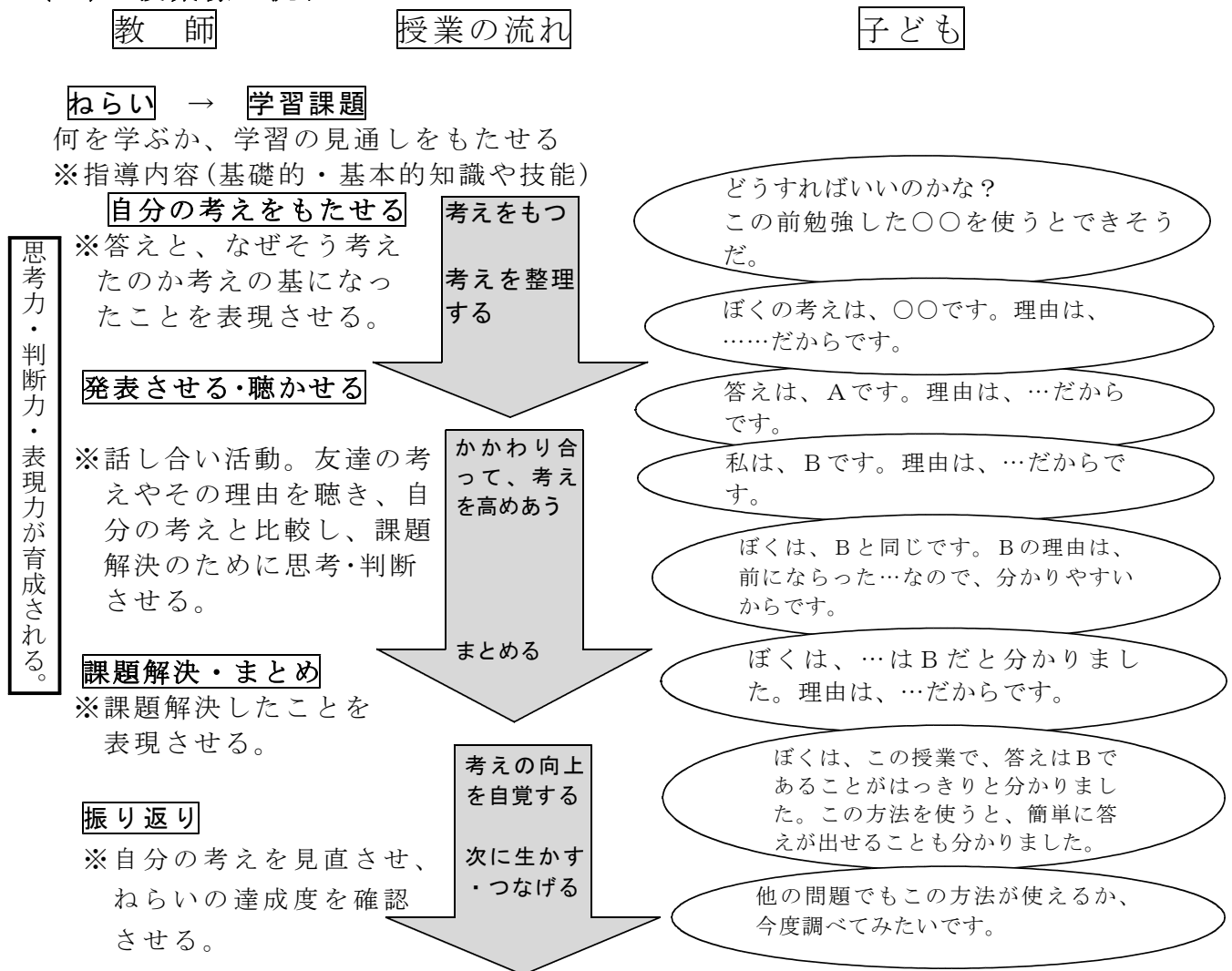
#### (2) 「学びの筋道が分かる授業の実現」を目指すための子ども像

低学年	中学年	高学年
○ <b>じぶんのかんがえをはっきりとはなし、さいごまできく子</b> ・みんなにきこえる大きさのこえ	○ <b>自分の考えを整理して話し、話の中心に気をつけて聞く子</b> ・理由とけつろんをはっきりさせ	○ <b>自分の考えの根拠を明確にして話し、自分の考えと比べながら聞く子</b>

<p>ではなす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめに」「つぎに」などのじゅんじょがわかることばをつかってはなす。</li> <li>・はなす人をよく見てきく。</li> <li>・わからないことをしつもんする。</li> </ul> <p><b>○わだいにそって話し合う子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はなしをしゅうちゅうしてきき、わだいにそってはなしあう。</li> </ul> <p><b>○まなびのふいかえいが書ける子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・じゅぎょうのかんそうやよかったことをかく。</li> </ul>	<p>て話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「だから」「だけど」などのつながりを示す言葉を使って話す。</li> <li>・分かったときは、うなずいたりあいづちをうったりして聞く。</li> <li>・話の中心について質問したり感想を述べたりする。</li> </ul> <p><b>○同じ点や違う点をつかみ話し合う子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの考えの同じ点やちがう点を考えて話し合う。</li> </ul> <p><b>○学びのふい返りが授業の中から見つけて書ける子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業から分かったことやできたことを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理由となる事実や記述、例などをもとに話す。</li> <li>・「つまり」「このように」などのまとめる言葉を使って話す。</li> <li>・大事な言葉をメモしながら聞く。</li> <li>・自分の意見と同じか違うかをくらべながら聞き、自分の考えをまとめる。</li> </ul> <p><b>○互いの意図をつかみ話し合う子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの意図をはっきりさせて話し合う。</li> </ul> <p><b>○学びのふい返りが自分の言葉で書ける子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたことや感じたこと、分からなかったこと（疑問点）をまとめた文章で書く。</li> </ul>
---	--	--

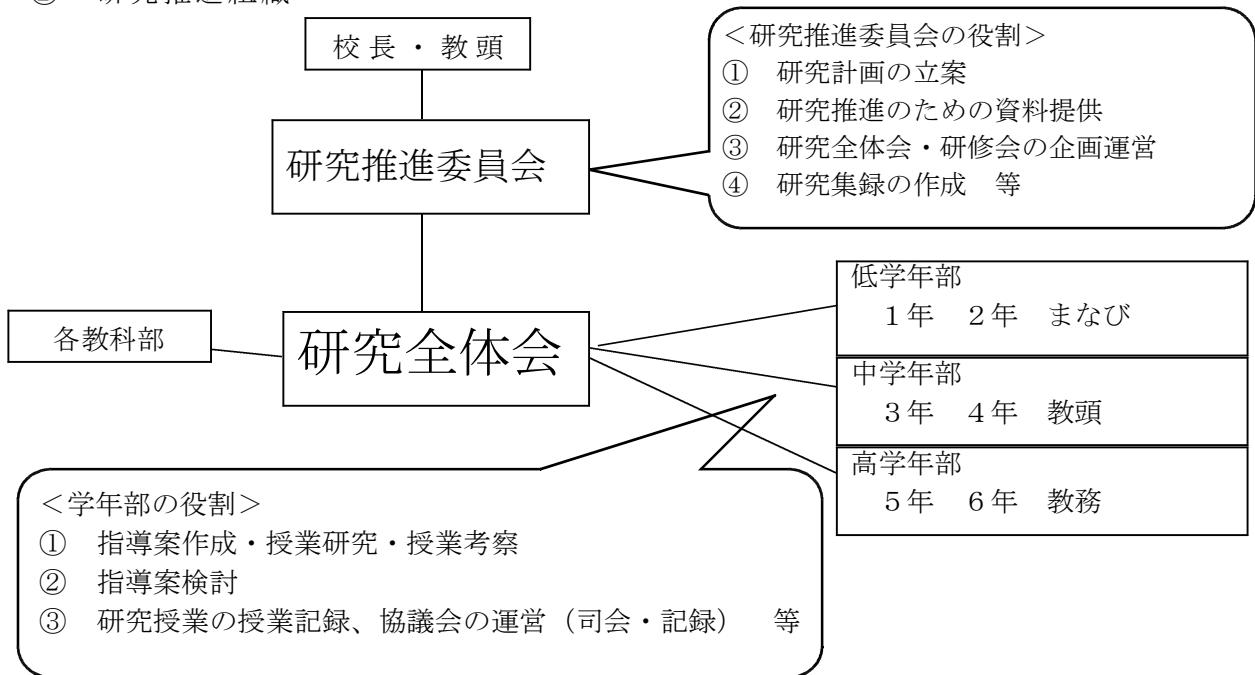
◎ 研究授業のみならず、日常の授業で「話す聴く・かかわる・書く」活動を通して上記の子ども像の具現化を目指す。

### (3) 授業像の流れ



#### (4) 研究の進め方

- ① 低・中・高学年部単位の研究組織とし、学年部計画等の立案や授業の実践を行う。
- ② 研究推進組織



#### (5) 研究授業について

\* 全学級で授業公開を行う。参観者は「授業参観10の視点」を記入する。

- ① 市教委訪問(2学期)、外部講師を招いての研究授業(1, 2学期に各1回を予定)
  - ・ 全員参加とする。
  - ・ 指導案検討は学年部で行い、その後、全体で検討会を行う。
- ② 上記以外の校内の研究授業
  - ・ 全員の参加で行い、学級担任は授業後、協議会を行うが、指導案検討は学年部のみとする。
  - ・ 級外も指導案を作成し(可能な限り研究主題に沿った内容で)授業公開を行う。
    - \* 可能な職員が参加することとし、授業後、感想等(授業参観10の視点)を記述し、研究主任へする。全体協議会を行わない。

#### (6) 研究教科について

1年次は、全員が算数で行う。

#### (7) 研究集録の作成について

1年間の実践を研究集録としてまとめ、年度末に製本する。

#### (8) その他の研修

- ① 23年度同和教育研究指定を受けて、26年度も、全学年1回は同和教育の研究授業を(2学期の人権教育強調週間で)行い、手立てや児童の様子などについて協議検討し、職員の人権意識を高める研修をする。先進実践校、県同教等の講演会等への参加、隣保館等関係機関との連携・研修、指導者の招聘なども積極的に検討していく。(同和教育、人権教育部、道徳部、研推)

- ② 新発田市の掲げている教育課題として次のようなものが挙げられる。各部が中心となって、推進していくものとする。
- ・学力向上（研推部）
  - ・日本語（日本語部）
  - ・食育（食育・給食部、学活部、総合部）
  - ・同和教育（同和教育部、人権教育部、道徳部）
- ③ 新学習指導要領実施に伴う課題として次のようなものが挙げられる。各部が中心となって、推進していくものとする。
- ・学力向上（研推）
  - ・外国語活動（国際理解部）

#### (9) 研究年間計画の見通し

4月	研究推進部会
5月	研究全体会（12日）：全体計画の共通理解
6月	研究授業 5年（6/27〔金〕）
7月	研究授業 年（7/〔 〕）
8月	（1学期授業研究のまとめ）
9月	研究授業 6年（市教委訪問：10/1〔水〕）
10月	研究授業 年（10/〔 〕）
11月	研究授業 年（11/〔 〕）
12月	研究授業 年（12/〔 〕）
1月	研究授業 年（1/〔 〕）
2月	授業研究のまとめ
3月	次年度の方向性の検討、次年度研究計画（案）の作成

\* 年2回は、指導者を招聘する。級外（学び、教務）も年間計画に入れる。

## 4 子どもの「分かる・できる」を支える取組（日常的に実践するもの、研究教科以外でも実践できるもの）

### (1) 板書の工夫

「ねらい」「課題（問題）」「自分の考え」「分かったこと」をしっかりと板書し、ノート指導につなげていく。

### (2) ノート指導の工夫

「自分の考えを書かせる（理由は必ず書かせる）場」と「分かったことを書かせる場」を設定し重視していく。

### (3) コミュニケーション能力（「話す・聞く・話し合う」力）の育成

### (4) 家庭学習の定着（学年×10分の徹底）

### (5) 学習規律（学習用具の準備・時間を守る・話しを聞く）の徹底

### (6) Webテストの活用・カードへの記入、NRT学力検査の分析と活用

### (7) 全国学力テスト（6年）、県小研学習指導改善調査（4～6年）の分析と活用



(2) 市教委訪問等における指導案

- A4版3枚程度であるが、「6 本時の指導」の部分については、今年度の研究研究で活用する「板書計画」による指導案形式と同様にする。(別紙で)

第○学年 算数科学習指導案

平成26年○月○日( )○校時

指導者 教諭 ○○ ○○

- 1 単元名
- 2 単元の目標
  - ◎
- 3 単元の評価規準
  -
- 4 子どもの実態と単元の構想(研究主題・内容とのかかわりを記述)
  - (1) 子どもの実態(今年度取り組んでいることをもとに、子どもの実態について述べる。)
  - (2) 単元の構想(①②③④について、～したい。)
- 5 単元の指導計画(全○時間)

次	時	主な学習活動
1	1	○ ① ②
	2	
2	1	

- 6 本時の指導
  - (1) 本時のねらい及び指導の構想(○/□時間)
    - ◎ ねらい
    - 構想(①～④について○○したい。)
  - (2) 板書計画(展開)
 

学習活動 ①○○○。 ②○○○。 ③○○○。 ④○○○。 ⑤○○○。 …

\* 外部からの参観者のいない授業研究の指導案の板書計画を参照

- (3) 評価(授業の視点も書く)





(4) 児童の自己評価方法

- 学期末ごとに研究教科にかかわる学習の評価を児童に行い、各自の授業研究の改善に生かす。(児童用には、漢字にルビを付ける。)

紫雲寺小学校児童アンケート 10項目

質問項目	評価			
算数が好きですか。	4	3	2	1
算数の授業が楽しいですか。	4	3	2	1
算数の学習の内容が分かりますか。	4	3	2	1
算数の授業中に、自分の考えを発表することができましたか。	4	3	2	1
算数の授業中に、友達の考えを聴いて、発言することができましたか。	4	3	2	1
算数の授業中に、自分の考えをノートまたはワークシートなどに書くことができましたか。	4	3	2	1
学習で分からないことがあったとき、友達に聞くことができましたか。	4	3	2	1
授業の終わりに、まとめやふり返りを書くことができましたか。	4	3	2	1
ワークテスト・学年テスト・Webテストなどに向けて勉強をしましたか。	4	3	2	1
学年×10分の家庭学習をしていますか。	4	3	2	1

<目指す子ども像>

**基礎・基本を身に付け、活用する子**

研究主任  
大森 博

今年度、紫雲寺小学校では、一人一人に確かな学力を付けることを最重点課題として取り組みます。そこで、学力向上担当の知育部では、「基礎・基本を身に付け、活用する子」を期待する子どもの姿として、子どもたちが「分かった」、「できた」という喜びや達成感を味わえる授業を目指します。

さらに、中学校区と歩調を合わせ、中学校区の学習3原則「しっかり聞く。時間を守る。学習用具の準備をする。」を基本に、確かな「振り返り」につながる授業を推し進めて、子どもたちの学力向上に取り組みます。

**1 基礎・基本の確実な定着**

- ポイントとなる単元や大切な学習内容については、繰り返し指導・復習させ身に付けさせたり、予習を奨励したりして学習の見通しをもたせます。また、毎月Web配信テストや国語・漢字テストを実施し、合格するまで再テストを行ったり、補充問題としてサポート問題に取り組みせたりして、個々の子どもたちの弱点強化を図ります。
- 友だちとかかわらせて話し合い、理由を考える活動を通して、自分の考えをもたせる授業を工夫します。また、一連の授業の中で、「話す・聞く・書く」をセットで取り上げ、それぞれの力を伸ばします。
- 家庭学習の習慣化を図り、安定した基礎学力の定着に努めます。  
紫雲寺地区の小・中連携で、共通して「学年×10分」以上とメディアコントロール（テレビを消す）に取り組みます。原則として、「読み・書き・算」については、毎日課題を出し、家庭学習をさせるように心がけます。

**2 授業の入口と出口を意識した授業**

- 授業のはじめに「ねらい」「課題」を明示し書かせ、学習の見通しをもたせます。
- 授業の終末時に、学習のまとめや「振り返り」を行い、授業から「分かったことやできたこと」、「考えたことや感じたこと」などを書かせます。このことで、自分が向上したことや学び方のよさを、子どもたち自身に確認させることができます。  
そのために、「授業の流れが分かる板書の工夫」、「学びの筋道が分かるノートの使い方の工夫」を行い、分かる・できる授業を一層進めていきます。
- **ねらい**→**課題**→**自力解決**（自分なりの考え）→**かかわり合い**（話し合い）→**まとめ**や**振り返り**を書くといった学習の流れで、友だちとかかわり合いながら、自分の考えを振り返り、見つめ直すことができます。さらに、今回学んだことが、次時の学習や家庭学習へうまくつなげるようにもなります。このことで、「自分が何を学び、何が身についたのか（分かったのか）」を子どもたち自身が理解できるようにします。

下記は、日常の授業の中で「めざす子ども像」を具現化したこどもの姿です。「話す聞く・かかわる・書く」活動を通し、学び合う中で、学力を伸ばしていきたいと思えます。

これらは、学習時にかかわらず、普段の生活の中でも、また、将来においても必要とされる力（コミュニケーション能力）です。発達段階に応じて身に付けることができるよう指導していきます。

低 学 年	中 学 年	高 学 年
○自分の考えをはっきりと話し、最後まで聞く子 ・みんなに聞こえる大きさの声で話す。	○自分の考えを整理して話し、話の中心に気がつけて聞く子 ・理由と結論をはっきりさせて話す。	◎自分の考えの根拠を明確にして話し、自分の考えと比較して聞く子 ・理由となる事実や記述、例など

・「はじめに」「つぎに」などの順序がわかる言葉を使って話す。

・話す人をよく見て聞く。

○**話題に沿って話し合う子**

・話を集中して聞く。

・話題に沿って話し合う。

○**まなびのふいかえいが書ける子**

・授業の感想やよかったことを書く。



・「だから」「だけど」などのつながりを示す言葉を使って話す。

・話の中心について質問したり感想を述べたりする。

○**同じ点や違う点をつかみ話し合う子**

・互いの考えの同じ点やちがう点を考えて話し合う。

○**学びのふい返りが授業の中から見つけて書ける子**

・授業から分かったことやできたことを書く。

をもとに話す。

・「つまり」「このように」などのまとめる言葉を使って話す。

・大事な言葉をメモしながら聞く。

○**互いの意図をつかみ話し合う子**

・互いの意図をはっきりさせて話し合う。

○**学びのふい返りが自分の言葉で書ける子**

・考えたことや感じたこと、分からなかったこと（疑問点）をまとめた文章で書く。